

## Ⅱ 農場運営

### 1 総務事項

#### 1) 人事異動

##### 2005.4.1 転出

大西 緝：農学部教授（前農場長）  
日高 安美：附属演習林事務係長（前附属農場総務係長）  
田島 正敏：医学部・歯学部附属病院医務課収納係長（前附属農場管理係長）  
四郎園修一：教育学部附属養護学校事務係長（前附属農場業務係長）  
大丸芙由子：辞職（前附属農場総務係係員）

##### 2005.4.1 転入

前田 芳實：農場長（兼務）（農学部教授）  
八汐 一博：附属農場総務係長（前医学部・歯学部附属病院管理課調達企画係長）  
竹ノ内昌代：附属農場管理係長（前財務部経理課附属家畜病院事務係長）  
東條 秋男：附属農場業務係長（前財務部経理課経理係長）

##### 2005.4.1 新規採用

田浦 一成：技術職員（学内農場農事部）  
尾前 純子：事務補佐員（農場本部）

##### 2005.4.1 配置換え

野村 哲也：唐湊果樹園（学内農場農事部）  
谷村 音樹：指宿植物試験場（唐湊果樹園）  
福留 弘康：学内農事部（指宿植物試験場）

#### 2) 技術職員研修

今日的な農場実習のあり方を探る上で、技術職員の資質向上が不可欠である。農場では、技術職員の資質向上を最重要課題と位置づけて、以下のような各種の研修を実施している。

##### (1) 学内講義の聴講

期 間 平成17年前期～後期  
講義名 植物生産学特別実験  
聴講者 松元里志、福留弘康、田浦一成  
目 的 教育実習の基礎である農学学理を学び、実習の高度化を図る。

##### (2) トロピカルフルーツ栽培技術研修

月 日 平成17年7月14日  
場 所 山川町  
参加者 川口昭二、野村哲也、中野八伯、長野幸男、木山孝茂、谷村音樹  
目 的 トロピカルフルーツ生産者の高度技術を学び、実習の高度化に役立てる。

##### (3) 落葉果樹栽培技術研修会

月 日 平成17年8月1日  
場 所 果樹試験場北薩支場  
参加者 野村哲也、中野八伯  
目 的 落葉果樹栽培の先導的研究を学び、実習の高度化に役立てる。

##### (4) 花き栽培技術研修

期 間 平成17年8月22日～9月22日  
場 所 鹿児島県農業試験場花き部（揖宿郡山川町）  
参加者 学内農場農事部 福留弘康  
内 容 花き栽培の高度な技術を習得し、実習の高度化を図る。

##### (5) 平成17年度鹿児島大学技術系職員研修

月 日 平成17年 9月 2日

場 所 鹿児島大学稲盛会館

発表者および発表題目（農場関係）

入来牧場 西谷 篤 「過去3年間の肉牛成績の推移と今後の展望」

入来牧場 廣瀬 潤 「自給飼料のみによる黒毛和種の肥育に関する研究」

（6）園芸学会平成17年度秋季大会出席

期 間 平成17年 9月30日～10月 3日

場 所 東北大学（宮城県仙台市）

参加者 唐湊果樹園 中野八伯

指宿植物試験場 木山孝茂

内 容 園芸分野における最新の研究動向を学び、実習の高度化に役立てる。

（7）平成17年度農学部附属農場・附属演習林および教育学部実習地技術部職員研修

期 間 平成18年 2月 7日～ 2月 9日

場 所 農学部附属農場 2階講義室

発表者および発表題目（農場関係）

学内農場農事部 福留弘康 「鹿児島県農業試験場花き部研修報告」

田浦一成 「セル成型苗の育苗技術の確立」

唐湊果樹園 野村哲也 「唐湊果樹園での1年を振り返って」

中野八伯 「気候温暖化がウンシュウミカン栽培に及ぼす影響とその対策」

指宿植物試験場 長野幸男 「指宿宿泊実習時の米の食味調査の結果報告」

木山孝茂 「研修報告平成17年度園芸学会秋季大会に参加して」

入来牧場 廣瀬 潤 「自給飼料のみによる放牧肥育黒毛和種牛の産肉能力および肉の官能評価」

西谷 篤 「過去3年間の枝肉格付成績の比較と今後の展望」

龍野巳代 「入来牧場における自動哺乳システムの利用」

3）農場施設の利用

農場では、学外・内を問わず広く施設の利用を受け入れている。

（1）学外（指宿植物試験場）

熊本県立大学環境共生学部 3年生, 19名

時期：9月 7日～ 9月 9日（2泊3日）

内容：植物生産環境アセスメント実習の一環として、植物生産の実習を行い、また熱帯・亜熱帯の植物の特性を学ぶ。

（2）学内（以下の利用は、すべて入来牧場）

4月26日 獣医学科学外臨床実習（4～5名）

4月29日～5月 1日 鹿大海外研究会 合宿研修（14名）

5月24日 獣医学科学外臨床実習（4～5名）

7月26日 獣医学科学外臨床実習（4～5名）

8月 3日 鹿児島大学事務職員研修

8月26日 卒業論文中間発表会（於：入来牧場）

9月20日 獣医学科学外臨床実習（4～5名）

9月26日～9月27日 家畜人工繁殖学実習（22名）

10月17日 獣医学科学外臨床実習（4～5名）

11月18日 獣医繁殖学実習（30名）

11月22日 産業動物獣医学実習（30名）

12月 2日 獣医繁殖学実習（30名）

12月20日 産業動物獣医学実習（30名）

12月27日 獣医学科学外臨床実習（3～4名）

1月 6日 獣医繁殖学実習（30名）

農場運営

1月31日	獣医学科学外臨床実習（4～5名）
2月28日	獣医学科学外臨床実習（4～5名）
3月28日	獣医学科学外臨床実習（4～5名）

4）刊行物

鹿児島大学農学部附属農場研究報告，第29巻（2006.3）

5）平成17年度全国大学農場協議会九州地区協議会

平成17年8月29日(月)～30日(火)の日程で，平成17年度全国大学農場協議会九州地区協議会を開催した。参加大学および人数は下記のとおりである。

参加校：九州大学，佐賀大学，宮崎大学，琉球大学，九州東海大学，南九州大学，鹿児島大学

参加者：37名

6）行事

4月6～7日	展示即売会および市民農業講座
6月30日	学内農場農事部田植え祭
10月21日	入来牧場乾草祭
11月11日	唐湊果樹園収穫祭

2 会計事項

1）予算および決算

平成17年度の農場予算および決算は，第5表のとおりである。

第5表 平成17年度予算および決算

単位：千円

施設名	当初配分額	追加配分額 および振替額	予算額	決算額	差引過不足額
学内農場農事部	6,077	7,309	13,386	13,402	16
唐湊果樹園	8,565	2,631	11,196	11,174	22
指宿植物試験場	8,350	8,627	16,977	17,107	130
入来牧場	77,368	2,127	75,241	76,137	896
学内農場畜産部	891	4,194	5,085	5,085	0
主事研究	821	202	619	619	0
共通(事務)	23,269	10,618	12,651	12,516	135
保留費	5,086	5,086	0	0	0
合 計	130,427	4,728	135,155	136,040	885

2）設備および備品

本年度は，機械設備の老朽化，陳腐化を是正するために，第6表に示すように総額1,625万円の予算を充当した。

第6表 平成17年度機械設備等の整備（50万円以上 予算：自己収入）

機械設備名	メーカー・規格	数量	金額（円）	施設名
タマネギ移植機	ヤンマー・PM2-D24	1台	1,400,000	学内農場農事部
コンバイン	ヤンマー・GC323VXJ	1台	2,999,850	〃
プレハブ冷蔵装置		1式	2,485,350	唐湊果樹園
草刈機	筑水・草刈機まさお220	1台	682,500	〃
普通貨物自動車	マツダ・タイタンダッシュ	1台	1,702,140	指宿植物試験場
マルチロータリー	イセキ RAY1207	1台	367,175	〃
運搬車	イセキ AM61L	1台	417,900	〃
スキッドステアローダー	TCM	1台	1,120,000	〃
マニアスプレッダー	ヤンマー	1台	2,980,000	入来牧場
ジャイロレーキ	ヤンマー・GRY6501H	1台	1,228,500	〃
超音波診断装置	アロカ・SON-TITAN-A	1台	2,100,000	学内農場畜産部
合 計			16,254,915	

### 3) 施設整備

#### (1) 学内農場農事部

学内農場農事部は、学内はもとより、地域住民の方々により多種多様なかたちで利用されているため、常に場内の整備が求められている。現在、農場公園化構想のもと、環境整備費を活用した花壇整備が進められている。また、ゴミ溜と化した資源リサイクル施設を用土リサイクル施設に改修し、実習と研究のための施設として甦らせた。その他、実習の高度化と生産の合理化を図るために、以下のような整備を行った。

5号圃場畦コンクリート除去・畦の塗り直し(8月)

7月の大雨で5号圃場畦畔コンクリートが決壊したことにより、同コンクリートを除去し畦畔を盛り土により造成し直した。

ミストハウス新設(7月完成)

面積54㎡のパイプハウス。自動灌水、小型暖房機、換気扇を装備。

3号温室(1月完成)

床面をコンクリート化。ハンガー式自動灌水、隔離ベンチの金網を利用した栽培ベンチの設置。

連棟ビニルハウス(3月完成)

ビニルの張り替え。床面のコンクリート打ち。ハンガー式自動灌水、栽培ベンチの設置。

単棟ビニルハウス(3月完成)

既存のパイプハウスの建て替え。ハンガー式自動灌水、隔離ベンチの金網を利用した栽培ベンチの設置。

#### (2) 唐湊果樹園

唐湊果樹園は、比較的整備されている施設であるが、農場共通の環境整備費の活用によって門扉等の整備が進められた。

しかし、多種類の果樹および有用植物の遺伝資源保存、評価、増殖および育苗等に利用される教育および研究の施設については整備が遅れている。現在使用しているハウスは簡易ビニルハウスであるため、強風時には倒壊防止のためにビニルを剥がねばならず、その都度、保存植物は甚大な被害を被ってきた。台風能耐えられる鉄骨ハウスの建設が緊急の課題である。

#### (3) 指宿植物試験場

これまで、産業廃棄物として処分場に移送する前の農業廃棄物(ハウスビニル、マルチビニル、肥料袋、ハウス部材など)は、倉庫の裏などを利用して、一時的に保管していた。しかし、保管場所が分散していたため、移送前の集積の手間や管理が十分でない点などの問題もあった。そこで、1箇所に分別保管できるように、技術職員が6区画に区切ったコンクリートブロック製の保管場所(30㎡)を作成した。

農場共通の環境整備費による業者委託で、場内の水路長さ14m分に幅60cmのコンクリート製U字溝を設置した。また、別途、技術職員が、水路長さ27m分に、幅30cmのコンクリート製U字溝を設置した。

技術職員は4名であるが、実習教育の見直しによる学内農場への定員1名移動に伴う措置として、平成17年度から19年度までの予定で常勤の時間雇用者1名を置いている。現在、当場の特色を活かすべく、熱帯・亜熱帯性果樹、植物を増殖しており、全体的な作業体系の見直しも含めて、今後これらをどのように、教育研究や生産および地域への貢献に活用していくのかを検討中であるが、ハウスの老朽化と相まって、温泉の枯渇により、遺伝資源保存が困難になりつつある。遺伝資源保存施設を含め、全面的な改修が必要である。

#### (4) 入来牧場

農場共通の環境整備費によって、牧柵の補修を行った。広大な牧場整備には多くの労力と経費を必要とするが、職員の努力によって進められている。

一方、入来牧場管理棟は、竣工(1968)後、38年を経過し、壁面の亀裂、雨漏り等、老朽化が著しい。また、竣工時、男子のみを対象をして建設された施設は、近年の女子学生比率の高まりに対応していないことから、不都合な場面が多くなっている。入来牧場管理棟の新営および改修が緊急の課題である。

#### (5) 学内農場畜産部

動物飼育棟は築22年を経過し、雨漏りなどの老朽化が目立ってきた。今年度は雨漏り防止のために、屋根の補修を行った。動物飼育棟の全面改修を視野に入れる必要がある。

### 3 業務事項

#### 1) 平成17年度農場生産物の収入見込み額および実績

農場では、常に最新の技術を取り入れ、生産効率が高く且つ、高品質な植物、動物の育成に努めることにより、教育実習の実を高めるとともに、副産物の価値を高める算段を行っている。

平成17年度における各施設の収入見込額と収入実績額は、第7表のとおりである。収入実績は付帯施設で増減がみられるものの、農場全体としては収入見込額を約500万円上回った。

第7表 平成17年度農場生産物の収入見込み額および実績

施設	収入見込額 (円)	収入実績額 (円)	備考
学内農場農事部	3,200,000	2,029,355	
学内農場畜産部	0	0	
唐湊果樹園	4,500,000	4,538,450	
指宿植物試験場	2,800,000	2,359,247	
入来牧場	60,764,000	67,431,618	
合 計	71,264,000	76,358,670	

## 2) 施設毎の生産概況と収入実績

平成17年度における各施設の生産概況と収入実績の内訳は、下記のとおりである。

### (1) 学内農場農事部

#### 生産概況

#### < 作物・野菜部門 >

学内農事部作物・野菜部門では例年同様、水稻、普通畑作物、露地野菜を栽培した。

水稻は、6月下旬から10月上旬まで3, 7, 8, 9号圃場で普通期品種ヒノヒカリを栽培した。4号圃場では、家畜生産学講座家畜管理学研究室と共同で、合鴨農法による黒米栽培を行った。また、2号圃場は、作物生産学講座植物育種学研究室、フロンティアサイエンス研究推進センター遺伝子研究部門が保存するイネ遺伝資源の増殖・系統保存を兼ねた各種イネ品種の展示圃場として使用した。

普通畑作物は、1号圃場で7月上旬から10月下旬まで大豆を、10月上旬から翌年5月中旬まで大麦、小麦を、10号圃場で5月中旬から9月下旬まで落花生を、11号圃場で5月中旬から10月下旬まで甘藷をそれぞれ栽培した。

露地野菜は、5号圃場で12月下旬から翌年4月下旬までキャベツ、8号圃場で11月下旬から翌年4月下旬までタマネギ、ニンジン、12号圃場で4月中旬から7月下旬までトマト、ナス、キュウリ、ピーマンを栽培した。また、12号圃場においては、農場実習の科目で学生による自主栽培も行った。

施設野菜は1号温室でトマト、ナス、キュウリの栽培を行い、連棟ビニルハウスで野菜苗の栽培を行った。1号温室は従来隔離ベッドを使用したメロン栽培が行われてきたが、農場実習カリキュラムの変更に伴い夏季より隔離ベッドを撤去し、野菜、花卉の輪作を行いながら数年かけて土作りを行っていく計画である。本年度は有機物を投入し、深耕ロータリーで耕起を行った。

水稻：水稻の栽培状況を第8表に示した。ヒノヒカリ、黒米を栽培した。学生実習で、6月上旬に播種、6月下旬に本田へ移植した。移植後の生育は順調であった。しかし、9月上旬の台風により倒伏、穂ずれが生じた。また、9月下旬にトビイロウンカの発生があったが、収穫適期前であったので薬剤散布による防除は行わなかった。一部、坪枯れが発生した。

第8表 水稻の栽培状況

			月 旬 4	5	6	7	8	9	10	11
圃場番号	面積(a)	品種	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
2	15	遺伝資源保存展示			○-----□					
3	15	ヒノヒカリ			○-----□				■	
4	18	黒米(合鴨農法)			○-----□				■	
7	27	ヒノヒカリ			○-----□				■	
8	25	ヒノヒカリ			○-----□				■	
9	15	ヒノヒカリ			○-----□				■	

#### < 普通畑作物 >

普通畑作物の栽培状況を第9表に示した。

甘藷：コガネセンガン栽培した。定植は学生実習として、5月中旬から6月上旬に4回に分け実施した。植え付け後の降雨不足により初期生育が不良であった。また、8月中旬にハスモンヨトウの被害を受けた。収穫時にはゴボウ根のものが多く見受けられた。

大豆：フクユタカを栽培した。7月上旬に学生実習により播種した。播種直後、鳥類による被害を受け、8月中旬にはハスモンヨトウの発生を見たが、鳥害対策及び防除によりその後の生育は順調であった。

落花生：千葉半立を栽培した。学生実習により、5月中旬に播種した。播種直後、鳥類により少々被害された。生育途中にはツユクサ等雑草が多く繁茂したため、除草に多くの労力を要した。

大麦：ニシノホシを栽培した。10月中旬に学生実習でとして播種した。播種後の生育は順調で、病害の発生も少なく、終始生育は順調であった。

小麦：アイラコムギを栽培した。10月中旬に学生実習として播種した。播種後の生育は順調で、病害の発生も少なく、終始生育は順調であった。

第9表 普通作物の栽培状況

				月旬 4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
圃場番号	面積(a)	作物名	品種	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
1	13	大豆	福豊										○											■															
1	6.5	大麦	ニシノホシ																				○																
1	6.5	小麦	アイラコムギ																				○																
10	13	落花生	千葉半立			○																		■															
11	22	甘藷	コガネセンガン			□	□	□																	■	■													

○播種, □定植, ■収穫

### <露地野菜>

露地野菜の栽培状況を第10表に示した。

トマト：品種桃太郎，ファーストパワーを栽培した。学生実習として、4月中旬に圃場に定植した。黒マルチ栽培を行とし、雨よけ栽培は行わなかった。一本仕立てで、随時、芽かきを行った。両品種とも、生育初期の降雨不足も重なって2、3番果頃まで尻腐れ病が発生した。アブラムシの発生回数は多かったが、適期防除により被害は受けなかった。その後の生育は順調であった。ファーストパワーでは多くの裂果が見受けられた。

ナス：品種黒陽，庄屋大長を栽培した。学生実習で4月中旬に定植し、黒マルチ栽培を行った。両品種とも、2本仕立てとし、随時、芽かきを行った。ハスモンヨトウ、アブラムシが多く発生したが、適期防除により被害は受けなかった。生育は順調であった。

キュウリ：品種夏すずみ，さちかぜを栽培した。学生実習で4月中旬に定植し、黒マルチ栽培を行った。両品種とも、親づる16節程度で摘心し、子づる、孫づるを放任とした。アブラムシが多発生したが、適期防除により被害は受けなかった。生育は順調であった。

ピーマン：品種京みどり栽培した。学生実習で4月中旬に定植し、黒マルチ栽培を行った。生育は順調であった。

キャベツ：品種金系100を栽培した。学生実習で10月下旬に播種、12月上旬に定植した。定植後苗立ち枯れ病が発生し、多くの被害を受けた。冬季間の例年にない低温により、生育が大きく遅れた。

タマネギ：早生品種プレスト3，中生品種中生こがねを栽培した。プレスト3については、9月中旬から10月上旬にかけて、随時セルトレイに播種し、11月下旬に機械移植した。中生こがねは、11月中旬にセルトレイに播種し、1月中旬に機械移植した。タマネギ移植機は本年度に導入したが、納期の遅れに伴い定植期が遅れた。また、例年にない低温、湿害により、生育が遅れた。

第10表 露地野菜の栽培状況

				月旬 4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
圃場番号	面積(a)	作物名	品種	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
5	2	キャベツ	金系100																																				
8	15	タマネギ	プレスト3																																				
8	5	タマネギ	中生こがね																																				
8	5	ニンジン	向陽2号																																				
12	0.2	トマト	桃太郎																																				
12	0.2	トマト	ファーストパワー																																				
12	0.2	ナス	黒陽																																				
12	0.2	ナス	庄屋大長																																				
12	0.2	キュウリ	夏すずみ																																				
12	0.2	キュウリ	さちかぜ																																				
12	0.2	ピーマン	京みどり																																				
12	10	自主栽培																																					

○播種, □定植, ■収穫

ニンジン：品種向陽2号を栽培した。12月上旬に播種，1月中旬に機械移植した。このニンジン栽培は、ニンジンの機械移植の可能性を検討するための試験的栽培法である。

自主栽培：授業科目農場実習において，農事部園場を利用して，学生各個人が露地野菜数種を対象に自ら栽培計画を立て，栽培管理を行い収穫に至るまで，すべての過程を体験的に学ぶ，露地野菜栽培実習である。一人当たり3m×5m=15㎡の園場を提供し，必要な道具，資材はすべて貸し出した。トマト，ミニトマト，ナス，キュウリ，ピーマン，カボチャ，ニガウリ，オクラ，スイカ，枝豆，スイートコーンなどが栽培された。黒マルチ栽培，敷き藁マルチ栽培，カボチャの立体栽培，トマトの雨よけ栽培など多くの工夫が各個人によって行われた。特に生育途中で害虫や病気がみられたが，無農薬栽培を行いたいと申し出る学生が多かったこともあり栽培管理面では各個人の意識の差が大きく表現された結果となった。

#### <施設野菜>

施設野菜の作付け状況について第11表に示した。

トマト：トマト栽培は年2作行った。1作目は既設の隔離ベッドを利用して4月下旬から7月下旬にかけて栽培し，2作目は隔離ベッドを撤去し，地床による栽培を9月中旬から3月下旬まで行った。品種は1作目が桃太郎，ファーストパワーを用い，園場露地栽培と比較した。誘引にはビニルテープを使用した。施設栽培においても順調に生育したが，ファーストパワーは果実の裂果が多く，施設栽培における水管理に課題を残した。2作目は中玉種のレッドオーレを栽培した。9月中旬に播種し，10月中旬に学生実習にて定植を行った。生育は順調で，特に収穫期を迎える頃に水分を控えて管理した。収穫は果実がゴルフボール位の大きさとなって完熟した時点で行った。うどんこ病などの発生もあったが，果実の裂果は少なく，生産物販売では大変好評であった。

ナス：ナスは品種筑陽を栽培した。9月中旬に播種し，10月中旬に学生実習にて定植を行った。定植時には苗が小さく，2本仕立てにするまでにかなりの時間を要した。例年に比べ低温で，生育温度が十分に確保できなかったこと，ハダニの駆除が困難を極めたこともあって収穫まで至らなかった。

キュウリ：キュウリは品種北進を栽培した。9月中旬に播種し，10月中旬に学生実習にて定植を行った。うどんこ病は発生したが，生育は順調で12月上旬から1月下旬まで収穫を行った。

野菜苗：野菜苗は次年度の農場実習の自主野菜栽培や，生産物販売に利用される。2月中旬から3月上旬にかけてセルトレイ（72穴，128穴）に播種し，9cmポリポットに鉢上げした。品目はトマト（品種「桃太郎」），ミニトマト（品種「千果」），ナス（品種「庄屋大長」，「黒陽」），ピーマン（品種「京みどり」），カボチャ（品種「えびす」，「鉄かぶと」），キュウリ（品種「夏すずみ」），ニガウリ（品種「沖縄中長レイシ」）であった。鉢上げ後トマト，ミニトマト苗は徒長したこと，ナス，ピーマン苗は生育が他に比べ遅れたことから播種時期の検討が必要である。そのほかの苗は順調に生育した。

第11表 施設野菜の施設別作付け状況

施設名称	栽培面積(㎡)	作物名	品種	月 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
				上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
1号温室(200㎡)	200	トマト	桃太郎・ファーストパワー	○	●	■	■								
	20	ナス	筑陽						○	●	■				
	160	トマト	レッドオーレ						○	●	■			■	■
	20	キュウリ	北進						○	●	■	■	■	■	
2号温室(200㎡)	200	ニンジン	向陽2号	■											
連棟ビニルハウス(275㎡)	185	トマト苗	桃太郎	○	●	■								○	●
		ミニトマト苗	千果	○	●	■								○	●
		ナス苗	庄屋大長・黒陽	○	●	■								○	●
		ピーマン苗	京みどり	○	●	■								○	●
		カボチャ苗	えびす・鉄かぶと	○	●	■								○	●
		キュウリ苗	夏すずみ	○	●	■								○	●
		ニガウリ苗	沖縄中長レイシ	○	●	■								○	●

○播種，●鉢上げ，□定植，■収穫，出荷，販売

#### <花卉部門>

花卉部門は平成17年度に新設され，切り花，鉢物（花苗），花木に関する栽培及び農場実習を生物生産学講座観賞園芸学研究室の協力を得て行っている。切り花はキク，トルコギキョウ，スイトピー栽培を2号温室と5号園場で行い，花苗は3号温室と連棟，単棟両ビニルハウスで，花木は単棟ビニルハウスで栽培した。また，花苗は花壇に植え付け環境整備にも利用した。2号温室は1号温室同様土作りの必要があり，土ふるい，有機物の投入，深耕ロータリーでの耕起を行った。施設別作付け状況について第12表に示した。

キク：秋輪ギクの神馬1号を4月中旬から10月下旬まで栽培した。まず，母株の養成を行い，母株より得た苗を本園に定植した。挿し芽，畝たてから収穫，切り花調整までのポイントとなる作業を学生実習として行った。途中，萎縮叢生症やハスモンヨトウによる食害があり，収量はあまり上がらなかった。また，収穫後の切り下株を10月下旬に，小ギクの母株を3月中旬に5号露地園場に定植した。

トルコギキョウ：トルコギキョウは7月中旬に学生実習としてセルトレイに播種したものを11月上旬に定植した。夏まきのトルコギキョウはロゼット化してしまうため今回定植したものは、来年5月から6月に収穫することになる。生育は順調である。

スイトピー：品種は主にロイヤルを用い、播種を11月上旬、定植を12月下旬に学生実習として行った。巻きひげの除去、整枝、誘引には多くの時間を要したが順調に生育した。また、観賞園芸研究室より様々な品種が提供され直播による試作栽培も行われた。

花苗：花苗は、ヒヤクニチソウを4月上旬に128穴セルトレイに播種し、5月上旬に9cmポリポットに鉢上げした。また、ガザニア、アゲラタム、クリサンセマムを12月中旬から1月下旬にかけて128穴セルトレイに播種し、9cmポリポットに鉢上げした。播種、用土作り、鉢上げは学生実習として行った。花苗は終始順調に生育し、環境整備や生産物販売に利用する。

花木：2月下旬にツツジの鉢替えを学生実習として行った。

花壇：ヒヤクニチソウを4月上旬に128穴セルトレイに播種し、5月上旬に学生実習で定植した。また、購入苗を4月中旬に学生実習で定植した。順調に生育したがミズガヤツリなどの雑草が繁茂した。コスモスは9月中旬に播種後、10月中旬に雑草対策のためマルチを張った後定植した。花壇は水田周辺にあり開花した時の色合いが良く、多くの人が立ち寄る場となった。

第12表 花卉の施設別作付け状況

				月 旬		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
施設名称	栽培面積(m <sup>2</sup> )	作物名	品種	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2号温室(200㎡)	50	輪ギク(母株)	神馬1号	◇	□													
	150	輪ギク	神馬1号						◇	□			■					
	50	トルコギキョウ							○				□					
	100	スイトピー	ロイヤル他										○		□			
3号温室(200㎡)	200	花苗	ヒヤクニチソウ	○			●											
		花苗	ガザニア											○		●		
		花苗	アゲラタム													○		●
5号圃場(1100㎡)	196	輪ギク(母株)	神馬1号										□					
		小ギク(母株)	南州シリーズ															□
連棟ビニルハウス(280㎡)	90	トルコギキョウ(鉢)							○						●	○		
単棟ビニルハウス	140	花苗	クリサンセマム														○	●
		ツツジ																□
花壇	140	草花	ヒヤクニチソウ	○		□												
	170	草花	ヒヤクニチソウ		□													
	170	草花	コスモス									○	□					

○播種、◇挿し芽、●鉢上げ、□定植・植え替え、■収穫、販売

## 収入実績

実習教育での余剰分については、学内で販売あるいは出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第13表 平成17年度学内農場農事部における収入実績

種 類	売り払い量 (kg)	金 額 (千円)	備 考
露地栽培			
水 稲		976	
玄 米	3,600.0	732	
屑 米	450.0	7	
黒 米	237.0	237	
い も 類		3	
甘 藷	50.0	3	
豆 類		14	
(種 実)		14	
落花生	24.3	14	
大 豆			
果 菜 類		167	
ナ ス	1,459	41	
キュウリ	916	27	
トマト	631	75	
ピーマン		24	
葉 茎 菜 類		195	
タマネギ		185	
キャベツ	107	10	
施設栽培		674	
野菜苗	12,840	590	
	939	79	
百日草、ガーベラ他	159	5	
合 計		2,029	



## (2) 唐湊果樹園

## 生産概況

## &lt;露地栽培&gt;

カンキツ類：春先の気温が低温で推移したため、発芽および開花は例年より遅れた。9月上旬に来襲した台風14号の暴風により一部樹体の倒伏が認められたが、甚大な被害ではなかった。秋は高温傾向で、ウンシュウミカンにおいて着色不良果、浮き皮果が発生した。12月の低温、降雪により中晩生カンキツにおいて果皮障害が発生した。病害はウンシュウミカンのそうか病が多かった。害虫ではゴマダラカミキリの被害が散発した。

カキ：前年の台風被害で懸念された花芽減少はみられなかった。台風14号の暴風によって落葉したものの、被害は軽微で、良質の果実が収穫できた。

ブルーベリー：成木においては樹体衰弱傾向にあったが、土壌管理の徹底に努めたところ、樹勢が回復し、果実収量が増加した。2003年9月定植の幼木も結実を開始した。

## &lt;施設栽培&gt;

パッションフルーツ；栽培3年目を迎えて、果実収量が増加した。夏実の果実品質は優れた。

第14表 果樹の栽培面積

単位：a

露地栽培：			
ウンシュウミカン	80	カキ	25
ボンカン	18	ビワ	8
ブンタン	10	ブルーベリー	15
タンカン	7	モモ	8
不知火	8	スモモ	4
川野なつだいたい・スイートスプリング	8	施設栽培：	
ハッサク・早香・津之香	10	マンゴー	3
その他カンキツ	30	パッションフルーツ等	2

## 収入実績

実習教育での余剰分については、学内で販売あるいは出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第15表 平成17年度唐湊果樹園における収入実績

種 類	売り払い量 (kg)	金 額 (千円)	備 考
果 実 類			
(ミカン類)		2,785	
甘夏	1,974.0	296	
サワーポメロ	1,588.0	294	
八朔	384.0	69	
タンカン	748.0	150	
不知火	1,296.0	500	
津ノ香	66.0	13	
温州ミカン	7,392.0	1,015	
河内晩柑	50.0	7	
ぼん旦類	110.0	15	
ボンカン	980.0	196	
その他（柑橘類）	1,377.5	230	
カキ、その他		1,071	
カキ	1,932.0	542	
ブルーベリー	107.2	214	
パッションフルーツ	149.6	101	
スターフルーツ	34.8	17	
青パパイヤ	141.9	41	
その他果実	303.8	156	
施設栽培		682	
植物苗	1,197.0	627	
植木苗	236.0	55	
合 計		4,538	

## (3) 指宿植物試験場

## 生産概況

9月6日の台風14号により、温室のガラス20枚と鉢置き場の屋根が破損した。また作物類では、収穫期が近づいていたグアバ果実の落果や損傷、グアバ葉の損傷により、50%の減収となった。そのほか、観賞用植物やマンゴー、パッションフルーツなどの果樹類で葉や枝の損傷などが発生した。この台風の被害により、当初収入予定より約50万円の減収となった。

果樹類では1月～3月に開花するマンゴーへの影響が懸念されたが、着蕾、開花は順調であった。平成16度の台風による被害の影響が残った作目以外は、おおむね順調な生育であった。

植物生産学コースおよび食糧生産学コースの実習においてジャガイモ（品種：農林1号）を1000㎡栽培した。また、遺伝資源植物として保存・継代栽培を続けている、熱帯性ヤムイモを1000㎡栽培した。

特用作物として、クミスクチン（20㎡）と亜熱帯果樹グアバ（2200㎡、100本）の葉を茶用で供した。

## &lt;各種作物&gt;

ジャガイモ：当場ではこれまで、ニシユタカやメークィーンなどの品種も試験的に栽培してきたが、当場の栽培条件下では、病害虫が少なく、イモの形状がそろいやすい、農林1号を10年以上にわたって栽培している。11月7日と21日に植物生産学コースの実習により屋根かけ方式のビニルハウス内に畝間65cm、株間20cmで定植を行った。施肥量はN:P:K=8:10:12/10アールとした。12月中旬に機械により土寄せを行った。当場は多湿地帯にあるため、例年、疫病が多発しているが、比較的低温が続いたためか、今年度はほとんど発生が無く、薬剤防除は定植時のネキリムシ対策以外は行わなかった。

収穫は平成18年3月15日～16日に、食糧生産学の実習で行った。出荷量は1054kg（18年4月出荷）であった。

ヤムイモ：当場では1970年代より農学部と連携して、世界各地から熱帯性のヤムイモ（*Dioscorea* 属植物）を収集・保存し、継代栽培を続けながら、教育研究の材料として利用し、また普及を行っている。現在、その数は6種約100系統である。着花は見られないため、種子による保存が不可能であり、毎年、種イモの保存、定植、収穫を繰り返している。種イモは、4月15～16日に切断、消毒した。施肥量は、N:P:K=20:20:20/10アールとし、畝間100cm、株間30cmで、4月28日から5月1日に各系統7～10株ずつ定植した。収穫は11月26日に植物育種学研究室の補助を得て行った。全体の収量は約400kgであった。系統ごとに網袋に入れて、加温温室内に貯蔵した。これらは、研究用、試験栽培用であり、出荷は行わなかった。

クミスクチン・グアバ（特用作物）：園場で栽培を行っているクミスクチンとグアバ葉を収穫し、乾燥して、茶用として販売した。注文を受けてから収穫乾燥しているため、収穫量は、その年の注文数により大きく変化しているが、ここ数年、注文数は増加傾向にある。茶としての利用であるため、農薬散布は一切行わなかった。

## &lt;熱帯果樹&gt;

施設では、ビニルハウスにおいてマンゴーを200㎡、パッションフルー180㎡、ガラス温室において、ゴレンシを50㎡それぞれ栽培した。平成16年度の台風により、被害を受けたマンゴーの開花が少なく、果実収量も約7割の減収であった。その他は、台風14号でパッションフルーツやグアバが被害を受けた以外、おおむね例年通りの生育状況であった。また、マンゴー、スターフルーツについては、接木による増殖を行った。マンゴー、パッションフルーツ、グアバなどは、苗木も生産し360鉢を販売した。

施設マンゴー：平成16年度の台風により果樹ビニルハウスのビニルが完全に破壊され、栽培しているマンゴー（成木）の半分以上の枝が折れ、葉は塩害に遭い、ほとんど無い状態となった。そのため、16年度は2～3月に見られる開花は、例年の3割程度であり、17年度の収量も26kgしかなかった。17年度は、台風14号の影響が懸念されたが、出雷、開花とも順調で、受粉状況も良好であった。

施設パッションフルーツ：平成16年の10月より栽培を開始したパッションフルーツは順調に生育し、6～7月に収穫する夏実は、140kgの収穫であった。しかし、台風14号により、枝や葉が損傷したため、10月から予定していた冬実の栽培は中止し、枝葉の回復に重点を置いた整枝剪定を行い、順調な生育となりつつある。

施設スターフルーツ：スターフルーツ（ゴレンシ）は果実が星型をしているところから、見た目の面白さで、珍重されており、120kgの出荷があった。現在栽培している品種は、酸味が強いので、生食用として供するには、若干不向きであるので、品種の選定や栽培方法の改善などを検討している。

露地グアバ：当場で行っている熱帯・亜熱帯果樹の栽培は、施設の利用がほとんどである。品種保存を除いた露地での果樹栽培は3700㎡程度であり、その70%程度が実生由来のグアバである。実生系のため、開花結実しない系統や、開花結実が非常に少ない系統が約半分を占めている。17年度は、台風14号の被害を受けたため、果実では24kgの出荷であった。グアバ果実は貯蔵性に難があり、前述のように、葉を茶にするための需要が増加しており、当場でも果実生産から茶用生産に重点を移しつつある。

## &lt;観賞用植物&gt;

当場では、多くの遺伝資源植物の保存を行っている。これらを原木として、実習において、取り木、挿し木、株分

けなどの繁殖法を行うため、必然的に販売する植物の種類数も多くなっている。

これまでは、大鉢（8～10号）の観葉植物を多く栽培していたが、販売単価の低迷や、1鉢あたりの重量が重いための労働負担の増大などにより、4～5年前から、中小鉢生産に切り替えてきており、それが、軌道に乗りつつあるところである。生育はおおむね順調であったが、台風14号により30%の植物に枝葉の損傷などの被害が発生した。

販売品目は約85種類あり、9割以上が、熱帯・亜熱帯を原産とする花木、観葉植物などの鉢物であった。販売鉢数では、ランタナ、ゲンペイカズラ、サンセベリア属（品種：フクリンチトセラン、ハーニー）が各品目とも800鉢程度で、他は、品目により約2～200鉢の幅があった。総販売鉢数（草花苗も含む）はおおよそ5,300鉢であった。

また、試験的に夏季におけるヒマワリなどの切花およびサンセベリアの切葉栽培を、秋季から冬季には、マリーゴールドやサルビアなどの花壇用花苗栽培を行った。

<その他>

20年以上に亘って栽培し、好評を博しているセルリー（品種：トップセラー）を今年度も無加温ビニルハウス（230㎡）で栽培し、480株を販売した。街路樹、植木用として栽培しているピロウヤシを12本販売した。

<今後の検討課題>

ジャガイモは圃場の関係から連作せざるを得ず、連作障害回避のため、夏作に緑肥を栽培しているが、高温多湿な場所のため生育が不十分であることが多く、当場の環境に適した暖地型緑肥の検討を行う必要がある。

ヤマイモに関しては、保存系統数の増加による栽培面積の増大、連作による病害虫の発生が認められ、これらに対応するために作業労働時間が多くなりつつある。保存方法や系統数の見直しとともに、冬季にエンバクを緑肥として栽培する以外に実施していなかった薬剤による土壌消毒なども検討する必要がある。

熱帯・亜熱帯果樹類は台風害だけでなく、冬季の寒害回避からの点からも施設での栽培が不可欠である。平成15年までの過去5～6年は、それほど大型の台風襲来が無く、被害も少なかったが、平成16、17年と台風による被害が多く発生した。平成16年以降、熱帯・亜熱帯性果樹類の実習教育充実のため、果樹類の増殖を行っているが、ビニルハウスでは、台風襲来時の被害が大きく、安定生産のためには、硬質プラスチックハウスへの切り替えなどを検討する必要がある。また、現在遺伝資源として保存している品種不詳の実生系統を優良品種へと更新することも課題である。

日本の熱帯果樹栽培は、暖地における特産品目として栽培面積が広がりつつある。しかし、マイナーな果樹であることは否めない。そのため、病害虫防除のための適応農薬の種類は極端に少なく、その防除にはたいへん苦慮している。

近年、多くの鉢物観賞用植物の価格は低迷をしており、鉢単価の上昇は、ほとんど見込めないのが現状である。そのため、播種もしくは、挿し木から製品化（販売）までの期間をいかに短縮し、作付け回数を増やすかが課題のひとつである。一方で鉢数の増加は、灌水作業の増大を招かざるを得ず、自動灌水装置などの導入も検討する必要がある。さらに保存植物の中から、鉢物栽培が可能な植物の選択と具体的栽培方法の研究もさらに推進していく必要がある。

#### 収入実績

実習教育での余剰分については、学内で販売あるいは出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第16表 平成17年度指宿植物試験場における収入実績

種 類	売り払い量 (kg)	金 額 (千円)	備 考
畑 作 物		124	
クミスクチン茶	28.50	86	
(特用作物) グワバ茶	18.40	37	
切 り 花 アナナス	20.00	1	
果 実 類		16	
グ ア バ	24.00	14	
キミノバンジロウ	2.80	2	
施 設 栽 培			
温 室		792	
植 物	3,851	710	
果 実 スターフルーツ	119.20	33	
切 り 花 ヒマワ 他	181.00	10	
切 葉 トラノオ	175.00	39	
ビニルハウス		1,067	
植 物	1438.00	498	
切 り 花 ストレチア	154.00	15	
パッションフルーツ			
果 実 他	139.70	128	

葉	菜	セロリー	482.90	106
		小松菜 他	59.60	10
		ラデッシュ	15.90	5
そ の 他		ジャガイモ	1450.00	303
		にがうり	60.00	2
そ の 他				360
植 木 類		ビロウヤシ	12.00	360
合 計				2,359

## (4) 入来牧場

## 生産概況

## &lt;飼養&gt;

牛：17年度、外部からの牛を導入せず、繁殖牛の大幅な更新は行わなかった。したがって、17年度末の牛の飼養頭数(429頭)は16年度末(430頭)とほぼ同数であった。昨年度から開始した子牛の人工哺乳装置による飼養技術は、ほぼ安定したものとなった。また、より高度な飼養管理を行うために、肥育牛群や繁殖牛群の血液プロファイリングを行い、飼養管理を改善する技術を実践するための血液生化学分析装置を購入した。来年度以降の教育や研究への利用が期待される。

豚：外部からの肥育素豚導入頭数は、16年度と比べ激減し、飼養規模、売却頭数ともに減少した。16年度の豚の飼養頭数は300～400頭で、17年度のそれは200～300頭であった。17年度は豚の半数近くを放牧で肥育した。

## &lt;飼料作&gt;

採草用飼料作物として、イタリアンライグラスおよびシロピエを約30ヘクタールの兼用地に栽培し、ラッピングロールサイレージとして貯蔵した。栽培面積は例年の通りであり、鹿による食害の激しさは依然として著しかった。これに対し、防護柵の高さを増したり、柵の補修を行ったりしたが、大きな効果は得られなかった。

## &lt;放牧地管理&gt;

放牧地(約100ヘクタール)の管理は、例年通り放牧後の追肥と追播を主とした。一部の放牧草地にはセンチピードグラスおよびカーペットグラスを試験的に播種した。新たに約5ヘクタールのワラビの優占する荒廃草地で豚の放牧を開始したが、ワラビ植生を完全に除去するには至らなかった。

## 収入実績

実習教育での余剰分については、学内で販売あるいは出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第17表 平成17年度入来牧場における収入実績

種 類	売り払い量 (kg)	金 額 (千円)	備 考
家 畜		58,781	
家畜 (牛)	72頭 (48,906 kg) 1 頭当たり679.25 kg	52,899	
家畜 (豚)	232頭 (16,333 kg) 1 頭当たり71 kg	5,808	
その他			
畜産加工物		6,639	
肉 (牛)	2,651.8 kg	3,177	
肉 (豚)	4,261 kg	2,383	
加工品		1,079	
その他		2,012	
内 臓		761	
牛豚皮		175	
肥 料		1,076	
合 計		67,432	

## 4 各種会議および委員会

## 1) 農場会議

(1) 委員 (任期2年, 2004年4月1日～2006年3月31日)

農場長 (委員長)	前田 芳實
農場主事	黒田 治之
学内農場農事部主任	下田代智英
学内農場畜産部主任	吉田 光敏
唐湊果樹園主任	山本 雅史

農場運営

指宿植物試験場主任	遠城 道雄	
入来牧場主任	伊村 嘉美	
生物生産学科		
作物生産学講座	佐藤 宗治	佐々木 修
園芸生産学講座	富永 茂人	坂田 祐介
病害虫制御学講座	櫛下町鉦敏	岩井 久
家畜生産学講座	岡本 新	中西 良孝
農業経営経済学講座	田代 正一	
生物資源化学科		
生命機能化学講座	北原 兼文	
食品機能化学講座	ヒッサムラドワン・イブラヒム	
食糧生産化学講座	稲永 醇二	
生物環境学科		
森林管理学講座	曾根 晃一	
地域資源環境学講座	寺本 行芳	
農林工学講座	末吉 武志	
生産環境工学講座	平 瑞樹	
獣医学科（産業動物獣医学）	高木 光博	
事務長	住田 義久	

(2) 委員会記録

第1回：平成17年7月20日（水）10時10分～11時55分

- 議題 1 16年度第3回農場会議での指摘事項に対する措置について  
 2 16年度農場決算書（案）について  
 3 17年度農場予算配分（案）について  
 4 農場実習（4期）プログラムの検討について  
 5 J T 鹿児島工場跡地利用について  
 6 その他

第2回：平成17年9月26日（月）15時～16時45分

- 議題 1 農場実習（4期）プログラム（案）の編成について  
 2 第1回農場会議での指摘事項に対する措置について  
 3 その他

第3回：平成18年1月25日（水）15時～17時20分

- 議題 1 第2回農場会議での指摘事項に対する措置について  
 2 農場における中期目標・中期計画に係わる年度計画について  
 3 農場実習教育およびそれを支える教育組織のあり方について  
 4 18年度農場実習2プログラムの編成作業について  
 5 農場併任教員（主任）の交代について  
 6 19年度概算要求について  
 7 18年度農場収入見込みについて  
 8 17年度農場年報の作成について

第4回：平成18年2月24日（金）15時～16時30分

- 議題 1 農場実習教育検討委員会への諮問内容および構成について  
 2 農場併任教員（主任）の交代等について  
 3 その他

第5回：平成18年3月22日（水）15時～16時35分

- 議題 1 第3回農場会議での指摘事項に対する措置について  
 2 18年度農場実習 プログラム（案）について  
 3 18年度農場実習 プログラムに係わる協力教員について  
 4 生産経営検討委員会の設置について  
 5 集中実習プログラム編成の検討について

## 2) 農場運営会議

### (1) 委員

農場長 (委員長)	前田 芳實
農場主事	黒田 治之
学内農場農事部主任	下田代智英
技術専門職員	松元 里志
学内農場畜産部主任	吉田 光敏
唐湊果樹園主任	山本 雅史
指宿植物試験場主任	遠城 道雄
技術専門職員	福村 和則
入来牧場主任	伊村 嘉美
技術専門職員	片平 清美
事務長代理	神宮司義成
農場総務係長	八汐 一博
農場管理係長	竹ノ内昌代
農場業務係長	東條 秋男

### (2) 委員会記録

第1回：平成17年4月13日（水）15時～17時05分

- 議題 1 農場実習（5期）のプログラム編成について（継続）
- 2 用土リサイクル施設の再開について（継続）
- 3 平成17年度全国大学附属農場九州地域協議会の日程について（継続）
- 4 農場会議での指摘事項について
- 5 18年度概算要求について
- 6 八重山高原星物語の協力依頼について
- 7 その他

第2回：平成17年5月11日（水）15時～17時15分

- 議題 1 17年度全国大学農場九州地域協議会の実行委員について（継続）
- 2 農場会議における指摘事項について（継続）
- 3 17年度農場予算配分方針について
- 4 農場研究報告編集委員の交代について
- 5 展示即売会反省会での指摘事項について
- 6 実習用・試験用農産物使用に関する書式変更について
- 7 その他

第3回：平成17年6月1日（水）15時30分～17時15分

- 議題 1 17年度農場予算配分方針について（継続）
- 2 トラクター免許取得について（継続）
- 3 その他

第4回：平成17年7月6日（水）15時30分～18時10分

- 議題 1 16年度農場決算（案）について
- 2 17年度農場予算配分（案）について（継続）
- 3 各種免許取得方針について
- 4 教員の欠勤時における実習体制について
- 5 実習・研究・業務報告書の記載について
- 6 J T鹿児島工場跡地利用について
- 7 その他

第5回：平成17年8月19日（金）15時～16時35分

- 議題 1 農場の将来構想について
- 2 農場会議での指摘事項について
- 3 農場実習（4期）プログラムの編成について
- 4 指宿植物試験場における水田跡地利用について
- 5 技術職員研修について

- 6 九州地域協議会および技術職員研修について
- 7 自動車購入について
- 8 その他

第6回：平成17年9月26日（月）10時～11時55分

- 議題
- 1 農場実習（4期）プログラム（案）について
  - 2 農場の将来構想について（継続）
  - 3 衛生管理者資格の取得について
  - 4 生物生産学特別実習時における生産物の提供について
  - 5 17年度後期集中実習の日程について
  - 6 仮設倉庫の建設に伴う学内販売および展示即売会会場について
  - 7 その他

第7回：平成17年11月2日（水）15時30分～17時05分

- 議題
- 1 農場の将来構想について（継続）
  - 2 農場会議での指摘事項に対する措置について
  - 3 評価会議について
  - 4 展示即売会および市民講座について（継続）
  - 5 農場プロジェクト（ホテル再生事業）の創設について
  - 6 18年度全国大学農場教育賞および技術賞候補者の推薦について
  - 7 衛生管理者資格の取得について（継続）
  - 8 農場実習の引率教員について
  - 9 19年度概算要求事項について
  - 10 その他

第8回：平成17年11月30日（水）15時～17時45分

- 議題
- 1 農場会議での指摘事項に対する措置について（継続）
  - 2 評価会議について（継続）
  - 3 農場プロジェクト（ホテル再生事業）の創設について（継続）
  - 4 18年度全国大学農場技術賞候補者の推薦について（継続）
  - 5 環境整備費の配分（案）について
  - 6 実習の高度化経費の使途について
  - 7 17年度入来牧場における収入目標額増について
  - 8 植物生産学コース教育検討WG委員会について
  - 9 附属農場防災マニュアル（案）について
  - 10 その他

第9回：平成18年1月11日（水）15時30分～17時40分

- 議題
- 1 農場会議での指摘事項に対する措置について（継続）
  - 2 17年度環境整備費の配分（案）について（継続）
  - 3 第3回農場会議開催について
  - 4 17年度に係る業務の実績に関する報告書について
  - 5 農場・運営合同会議の日程について
  - 6 17年度保留費の使途について
  - 7 生物生産学特別実習（2期）および農場実習（4期）について
  - 8 全国大学農場協議会1農場1アピールについて
  - 9 その他

第10回：平成18年2月1日（水）15時30分～17時40分

- 議題
- 1 17年度保留費の配分について（継続）
  - 2 17年度共通経費残予算の使途について
  - 3 18年度定年退職者予定（技術職員）の後任補充について
  - 4 18年度農場実習 プログラム編成について
  - 5 九州大学指宿試験地管理に係わる申し入れについて
  - 6 農場実習検討委員会の立ち上げについて
  - 7 農場会議での指摘事項について
  - 8 18年度展示即売会について

- 9 農場生産物の新たな販売戦略について
- 10 全国大学農場協議会アンケート調査について
- 11 学生実習等に伴う盗難防止対策について
- 12 その他

第11回：平成18年3月9日（木）15時～16時25分

- 議題
- 1 農場会議における指摘事項に対する措置について（継続）
  - 2 農場実習教育検討委員会について
  - 3 併任教員の交代について
  - 4 18年度農場実習 プログラムについて
  - 5 農場実習 における協力教員について
  - 6 18年度前期集中実習日程について
  - 7 17年度附属農場収入実績額について
  - 8 収入増分の使途について
  - 9 技術職員の新任研修について
  - 10 ポジティブリスト制度の施行について
  - 11 生産経営検討委員会の設置について
  - 12 集中実習プログラム編成について
  - 13 その他

### 3) 農場施設等利用委員会

#### (1) 委員

農場主事（委員長）	黒田 治之
学内農場農事部主任	下田代智英
唐湊果樹園主任	山本 雅史
指宿植物試験場主任	遠城 道雄
入来牧場主任	伊村 嘉美
作物生産学講座	角 明夫
園芸生産学講座	岩井 純夫
家畜生産学講座	岡本 新

#### (2) 委員会記録

第1回：平成18年3月14日（火）10時～10時40分

- 議題
- 1 18年度施設等利用計画（案）について
  - 2 18年度行事計画（案）について
  - 3 ポジティブリスト制度について

### 4) 農場動物飼育棟委員会

#### (1) 委員

農場主事（委員長）	黒田 治之
学内農場畜産部主任	吉田 光敏
学内農場農事部主任	下田代智英
入来牧場主任	伊村 嘉美
家畜生産学講座	大久津昌治
食品機能化学講座	大塚 彰
獣医学科（家畜生理学）	川崎 安亮

#### (2) 委員会記録

第1回：平成17年4月13日（火）11時～11時30分

- 議題
- 1 17年度動物飼育棟利用計画（案）について
  - 2 17年度行事計画（案）について
  - 3 その他

第2回：（持ち回り）



- 議題 1 農場管理棟1階洗浄室靴箱設置について  
第3回：平成18年3月13日（月）15時～15時20分  
議題 1 18年度動物飼育棟利用計画（案）について  
2 18年度行事計画（案）について  
3 ポジティブリスト制度について  
4 その他

5) 農場研究報告編集委員会

(1) 委員

園芸生産学講座（委員長）	岩井 純夫
農場主事	黒田 治之
作物生産学講座	佐々木 修
家畜生産学講座	岡本 新
獣医学科（産業動物獣医学）	高木 光博

(2) 委員会記録

- 第1回：平成17年6月8日（水）15時～16時  
議題 1 委員長の選出について  
2 鹿児島大学農学部農場研究報告投稿規程（案）について  
第2回：平成17年12月12日（月）13時30分～14時  
議題 1 鹿児島大学農学部農場研究報告第29号の編集について  
第3回：平成18年1月12日（木）15時  
議題 1 鹿児島大学農学部農場研究報告第29号の編集について